

3. タイワンスジオの捕獲等

3-1. 概要

3-1-1. 目的

平成 31 年度までは、今後の防除等を円滑に進行するための生息範囲の調査、防除手法の開発等が行われてきた。また、「沖縄県外来種対策指針」、「沖縄県対策外来種リスト」、「沖縄県外来種対策行動計画」が策定され対策を推進する上での基盤整備が図られた。

タイワンスジオは「沖縄県対策外来種リスト」において「重点対策種」に指定され、重点的に防除を実施する必要がある。本業務は、行動計画及び「タイワンスジオ防除計画」に定められた防除目標達成のため、沖縄島においてわなによる捕獲及び排除を行うものである。

3-1-2. 防除の目標（防除計画より抜粋）

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 D 拡散の防止**（やんばる地域への拡散防止）

◎ 保全上重要な地域等への侵入・拡散の防止

すでに沖縄島中部を中心に定着しており、私有地や米軍基地を含むあらゆる環境に分布していると考えられています。さらに、移動能力が高いため、自力による拡散や狭い隙間を好む習性から、建築資材や車輛等によって他地域への拡散が懸念されます。そこで、やんばる地域を含む他地域への拡散リスクを低減させることを目標とします。

3-1-3. 対策の方針（防除計画より抜粋）

(1) 未定着地域への拡散リスクの低減

生息地域に所在する資材（材木や建築資材等）の集積地およびその周辺において、密度低下を目的とした捕獲を実施します。特に、やんばる地域に資材等を運搬する拠点の把握と周辺での捕獲を実施します。また、自力での北上を防止するために、防蛇フェンスの検討を行います。

(2) 保全上重要な地域への侵入監視

ヤンバルクイナやケナガネズミをはじめとする希少種が多く生息するやんばる地域への侵入を監視します。タイワンスジオは隠ぺい性が強く、ルートセンサス等による定量的な監視モニタリング調査は現実的ではないため、目撃情報を継続的に収集します。また、やんばる地域への北上の監視のために、トラップによるモニタリングも実施します。

(3) 普及啓発

ホームページ、イベント、チラシ配布等を通して防除の目的を県民へ周知するとともに、生息情報の収集や捕獲に向けた協力などが得られるよう、関係機関とも協力して取り組みます。

(4) 捕獲手法等の改良

効果的な防除を実施するため、新たに得られた知見や技術、有識者等の意見を踏まえて捕獲手

法等の改良を行います。

3-1-4. 実施項目

- ① 定着地域での防除
 - ・恩納村 5 地区（恩納、太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）における捕獲作業
 - ・名護市 5 地区（久志、豊原、辺野古、汀間、三原）における定着確認
- ② 分布調査及び拡散の防止の検討
 - ・恩納村 2 地域（ゴルフ場、県民の森）における分布調査
- ③ 北九州へのタイワンスジオ拡散について
- ④ 捕獲手法等の改良
- ⑤ 今後の展開
- ⑥ マングース第三北上防止柵の改良による防蛇柵の検討

3-2. 定着地域での防除

3-2-1. 目的

定着地域である恩納村と名護市においてタイワンスジオの捕獲作業を実施した。

恩納村にはタイワンスジオが高密度に生息しており、特に瀬良垣と喜瀬武原は、タイワンスジオの北限地域であると考えられる（図 3-2-1.1）。これら地域に対するタイワンスジオの個体密度低下を目的にトラップを設置し、捕獲作業を行った。

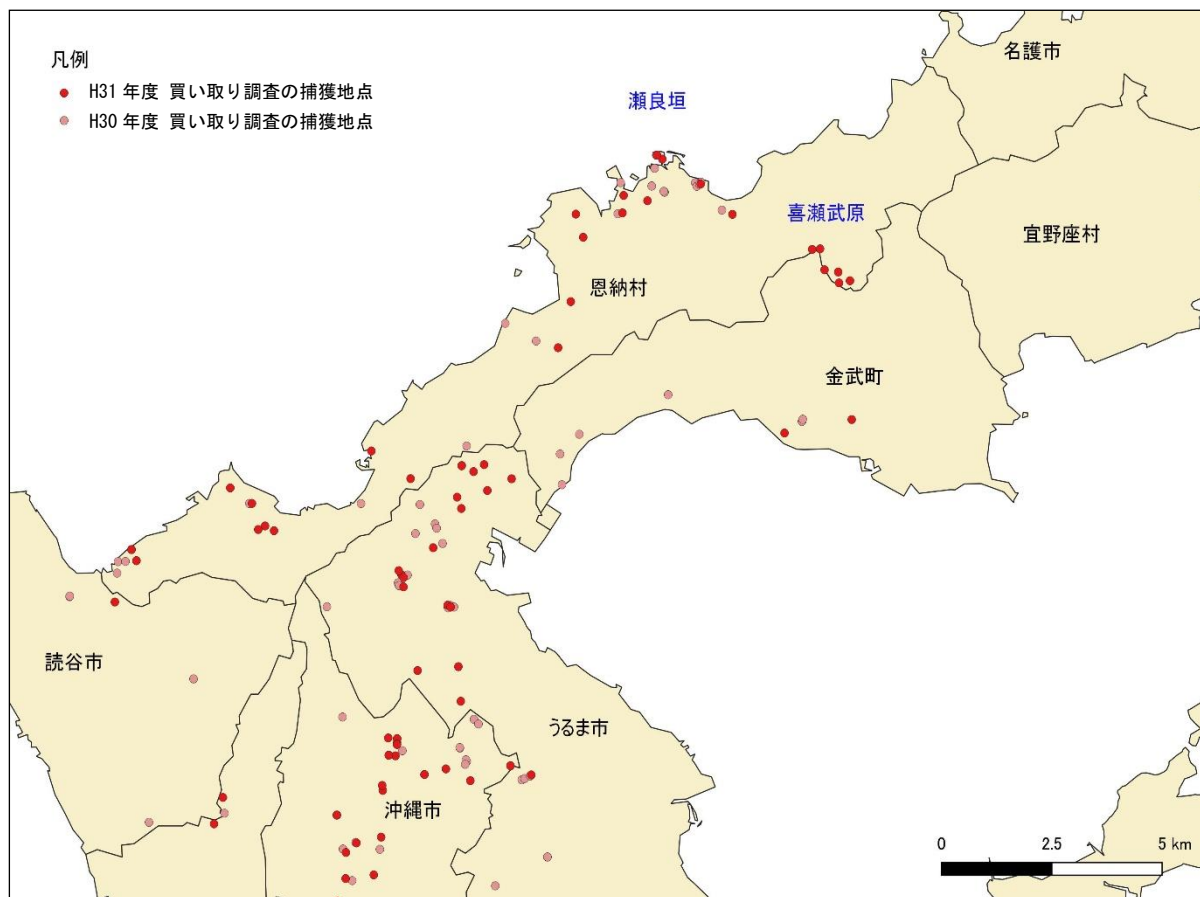


図 3-2-1.1 これまでの買い取り調査によるタイワンスジオの捕獲地点（平成 31、30 年度）

また、平成 31 年度までにタイワンスジオが捕獲された地点の中で最も北側に位置する名護市 4 地区（久志、豊原、辺野古、汀間）と汀間に隣接する三原地区を加えた計 5 地区にもトラップを設置した（図 3-2-1.2）。

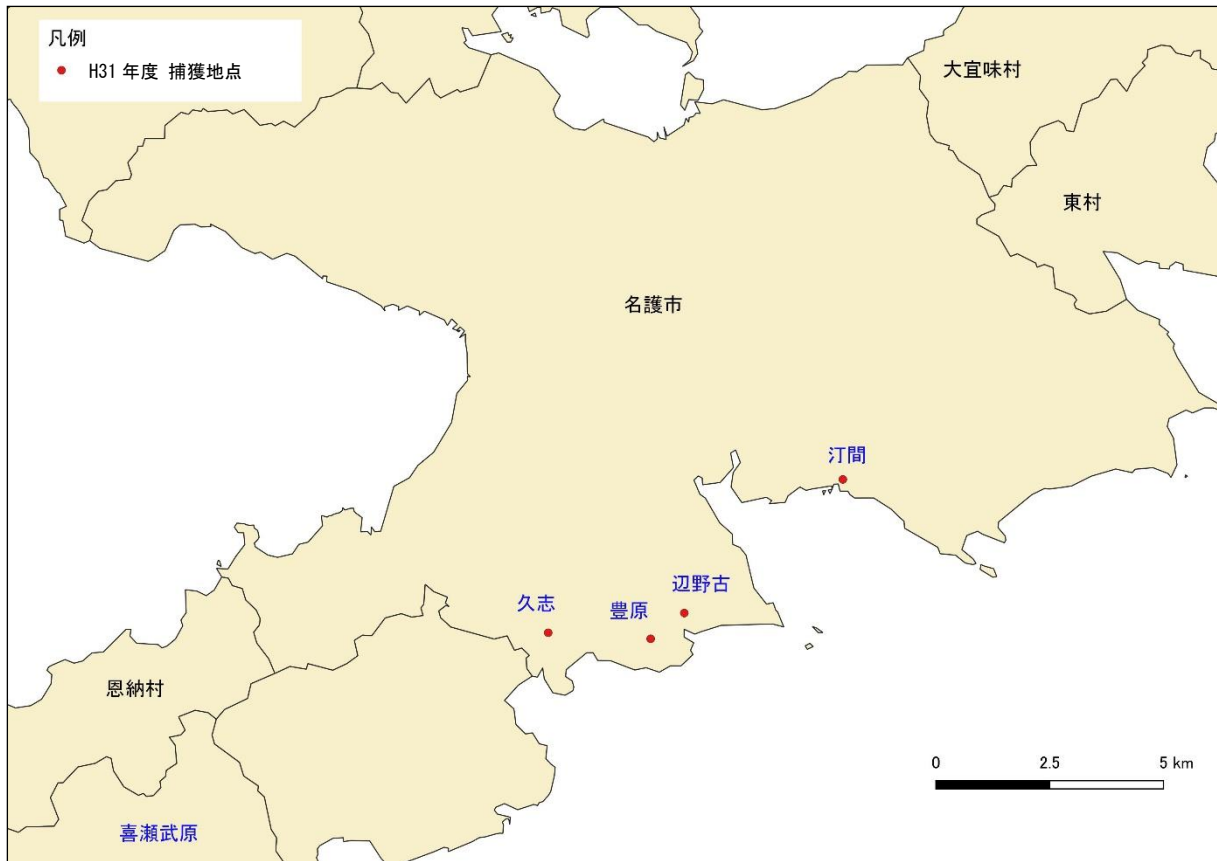


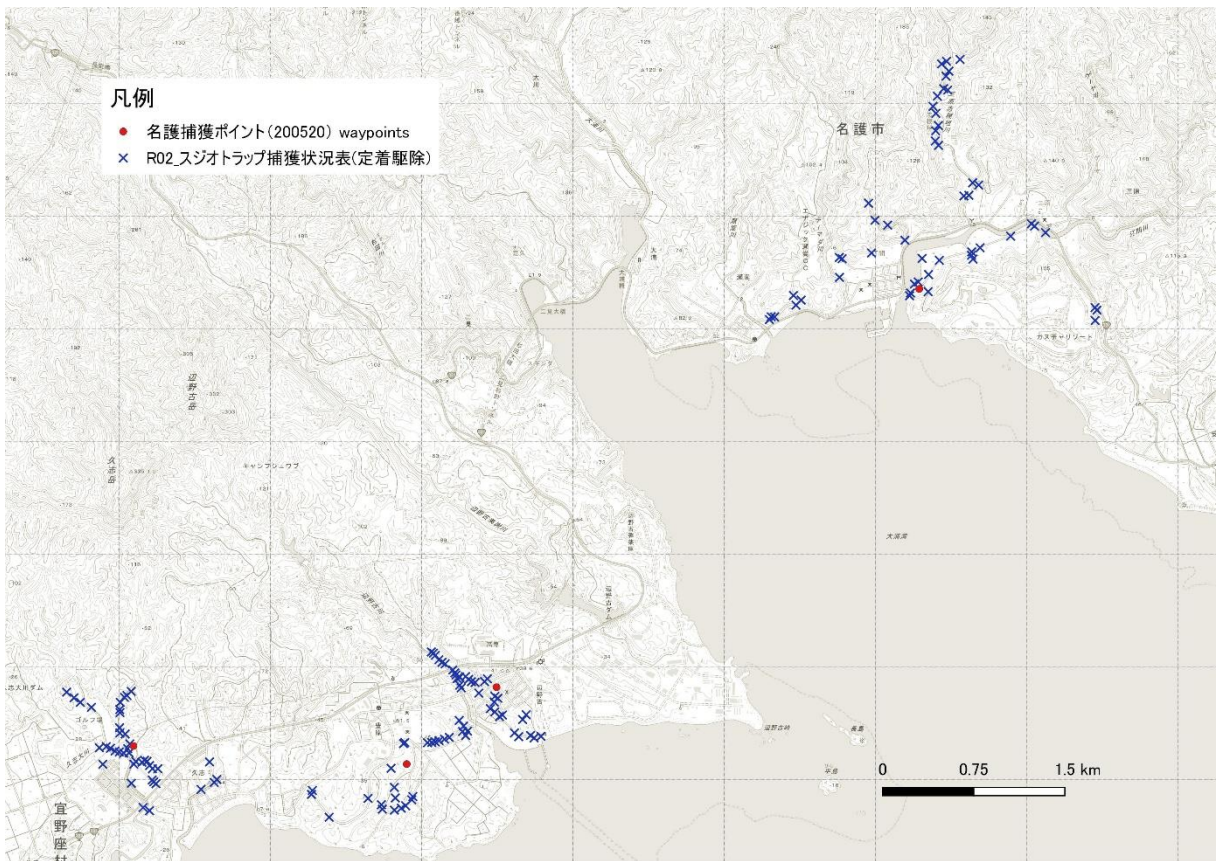
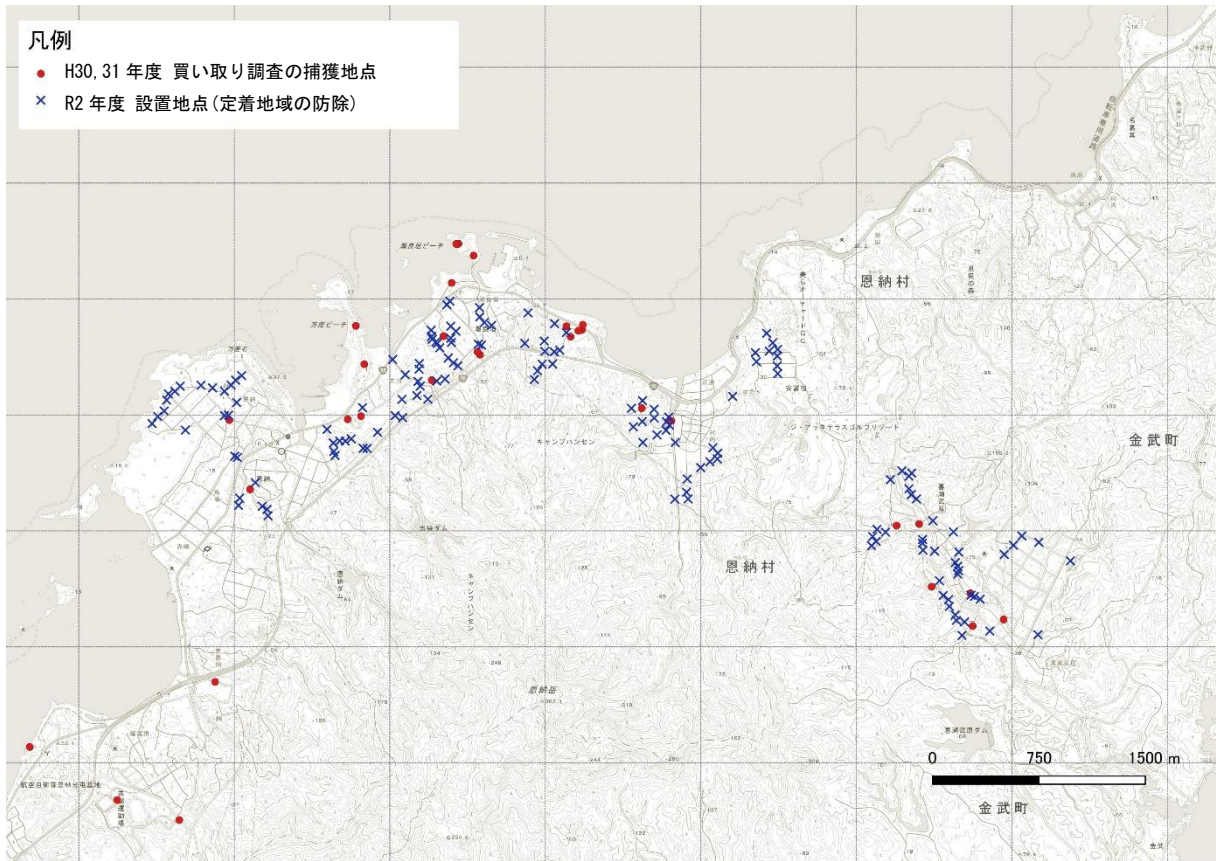
図 3-2-1.2 これまでの名護市におけるタイワンスジオ捕獲地点

3-2-2. 捕獲対象地域と設置地点

恩納村と名護市におけるトラップ設置地点を図 3-2-2.1～2 に示す。

本年度のトラップ設置予定台数は、1 メッシュ（約 1km²）あたり 25 台、23 メッシュの計 575 台である。前期（6 月～9 月）に 12 メッシュに 303 台、後期（9 月～12 月）に 12 メッシュに 301 台のトラップを稼働させ、のべ 24 メッシュ 604 台分のトラップが設置された。

恩納村では、5 地区（恩納、太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）に 152 台（図 3-2-2.1）、名護市では、5 地区（久志、豊原、辺野古、汀間、三原）に 150 台（図 3-2-2.2）のトラップが設置された。それぞれの地点は、昨年度までの（平成 30、31 年度）買い取り調査における捕獲地点と本年度の聞き取り調査（恩納役場村民課、恩納村 6 公民館、名護市環境対策課、名護市 5 公民館）の情報を参考に設定した。



3-2-3. 捕獲方法

使用するトラップは、改良ハブ型トラップ（以後、ハブ型トラップ）、グアム型トラップ、Doc型トラップの3種類を用いた。各トラップの設置台数及び設置場所を表3-2-3.1に示す。

設地期間を前期と後期に分け、それぞれ6回の点検を行った。

表3-2-3.1 恩納村と名護市における各トラップの設置台数

設置場所	わな種	設置期間	設置台数	設置期間	設置台数	合計設置台数
恩納村	ハブ型	6月～9月	78	9月～11月	76	154
	グアム型		67	9月～12月	67	134
	Doc型		8		8	16
	計		153		151	304
名護市	ハブ型	6月～9月	75	9月～11月	75	150
	グアム型		53	9月～12月	53	106
	Doc型		22		22	44
	計		150		150	300
合計	ハブ型	6月～9月	153	9月～11月	151	304
	グアム型		120	9月～12月	120	240
	Doc型		30		30	60
	計		303		301	604

(1) ハブ型トラップ

ハブ型トラップは、基本的に既存のハブトラップの仕組みを利用している。既存ハブトラップからの改良点は、①トラップサイズの大型化（内寸 27.7cm×61.9cm×15.5cm）、②へビ侵入口であるロート先端隙間の確保（φ15mm）（図 3-2-3.1 B）、③マウスからラットへの誘引剤変更、④侵入口とラット飼育室の間に設けた仕切り板などが上げられる（図 3-2-3.1 C）。本年度用いたハブ型トラップ（図 3-2-3.1 A）は、平成 31 年度に使用していたハブ型トラップ（図 3-2-3.1 D）と大きな変更はないが、トラップを簡単に作成するために誘導板を無くした形状とした。

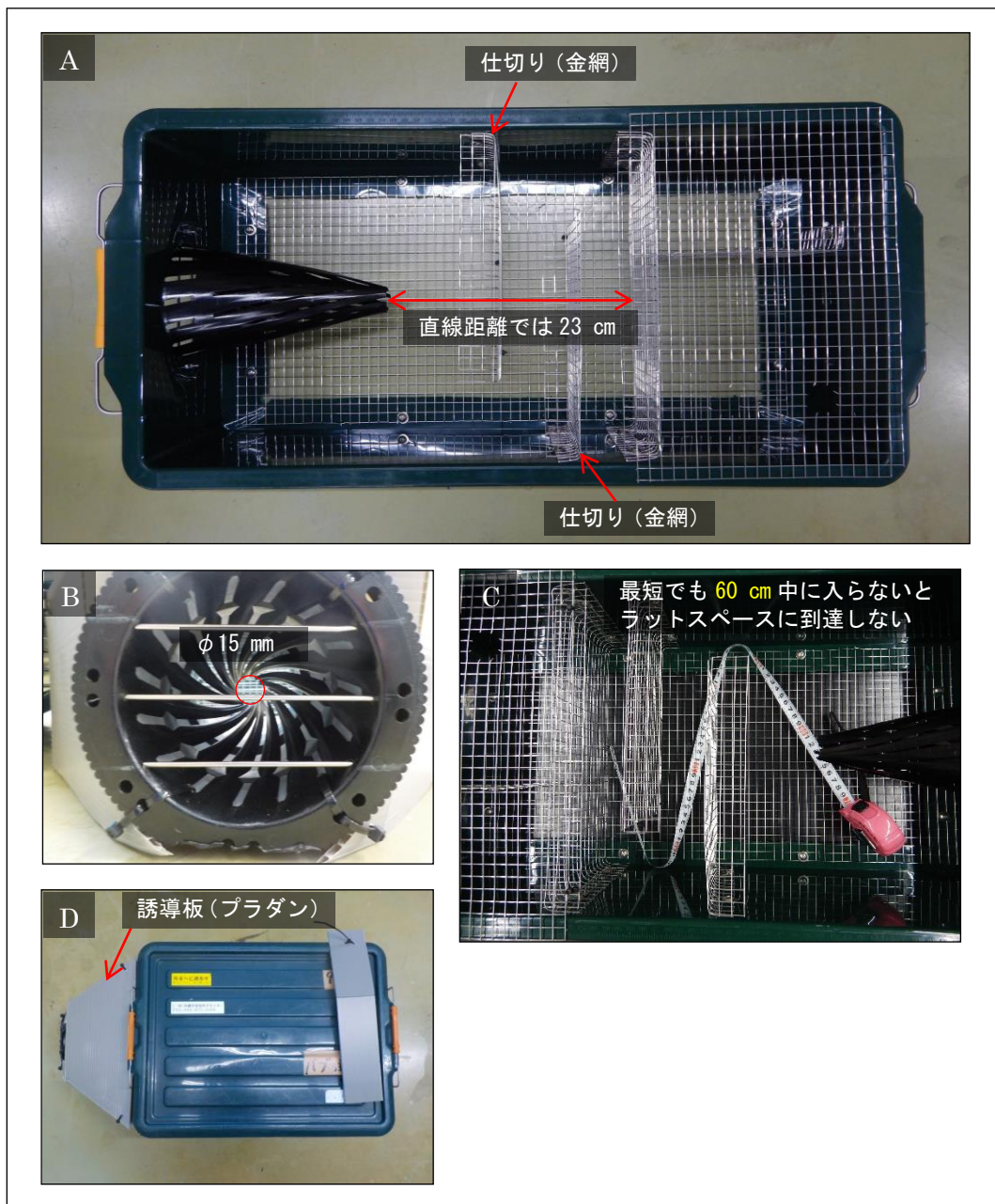


図 3-2-3.1 ハブ型トラップの構造

トラップの点検は2週間に1回とし、ラットの給水及び餌の補充、ヘビ類が捕獲されていた場合は記録・回収を行った。設置環境は主に林縁とし、ラットの飼育環境を考慮してトラップには直接日光が当たらないように設置した（図3-2-3.2）。

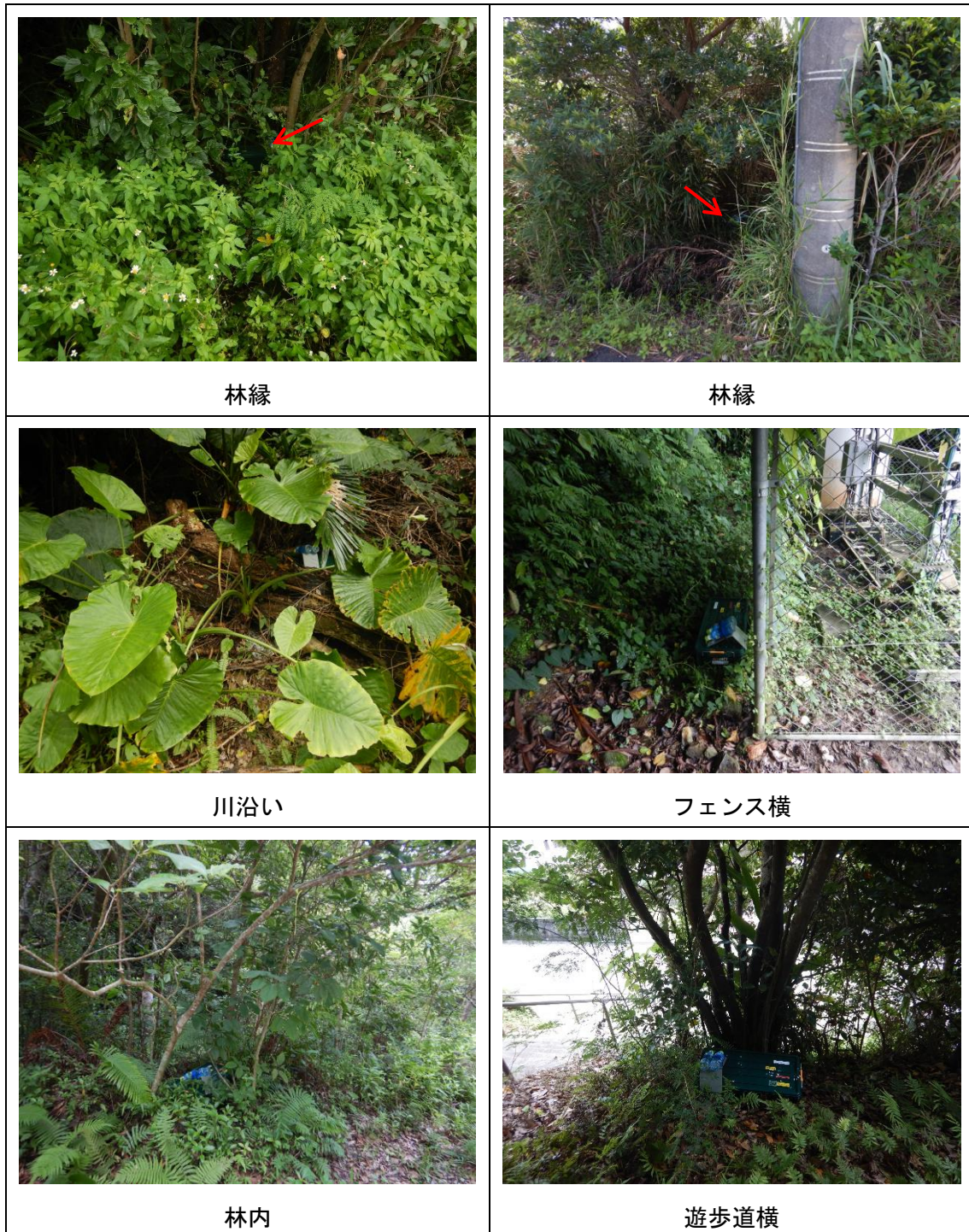


図3-2-3.2 ハブ型トラップの設置状況と環境

(2) グラム型トラップ

グラム型トラップは、グラムでミナミオオガシラ対策に用いられているステンレス製の円筒形トラップを改良したものである。平成 31 年度は、入口を片側のみとしてもう片側にマウススペースを設け、入口からマウスまでの距離を約 40cm として、トリカルネット（網目 6mm、プラスチック製）を用いて作製した。入口はフラップ式扉（φ4cm）で、設置の際は、日除け・雨除けのためトラップ上面とマウススペースのサイドをシートで覆い、入口側からのマウス臭気で誘引できるように工夫した。

今年度はプラスチック製よりも強度や耐久性に優れた金属製トラップを新たに作製した（図 3-2-3.3）。基本的な構造はプラスチック製と同じであるが、大きさは一回り大きなものとし、入口からマウスまでの距離を約 58cm とした。

今年度の調査は、プラスチック製 50 台、金属製 70 台とし、合計 120 台について設置した（恩納村 67 台、名護市 53 台）。設置環境は主に林縁とし、畑や作業小屋周辺等にも設置した（図 3-2-3.4）。また、設置高は 1m 前後とした（0.3m～1.6m、平均 1.1m）。

誘引餌はマウス（ハツカネズミ）を使用し、2 週間に 1 回の頻度で点検を行った。

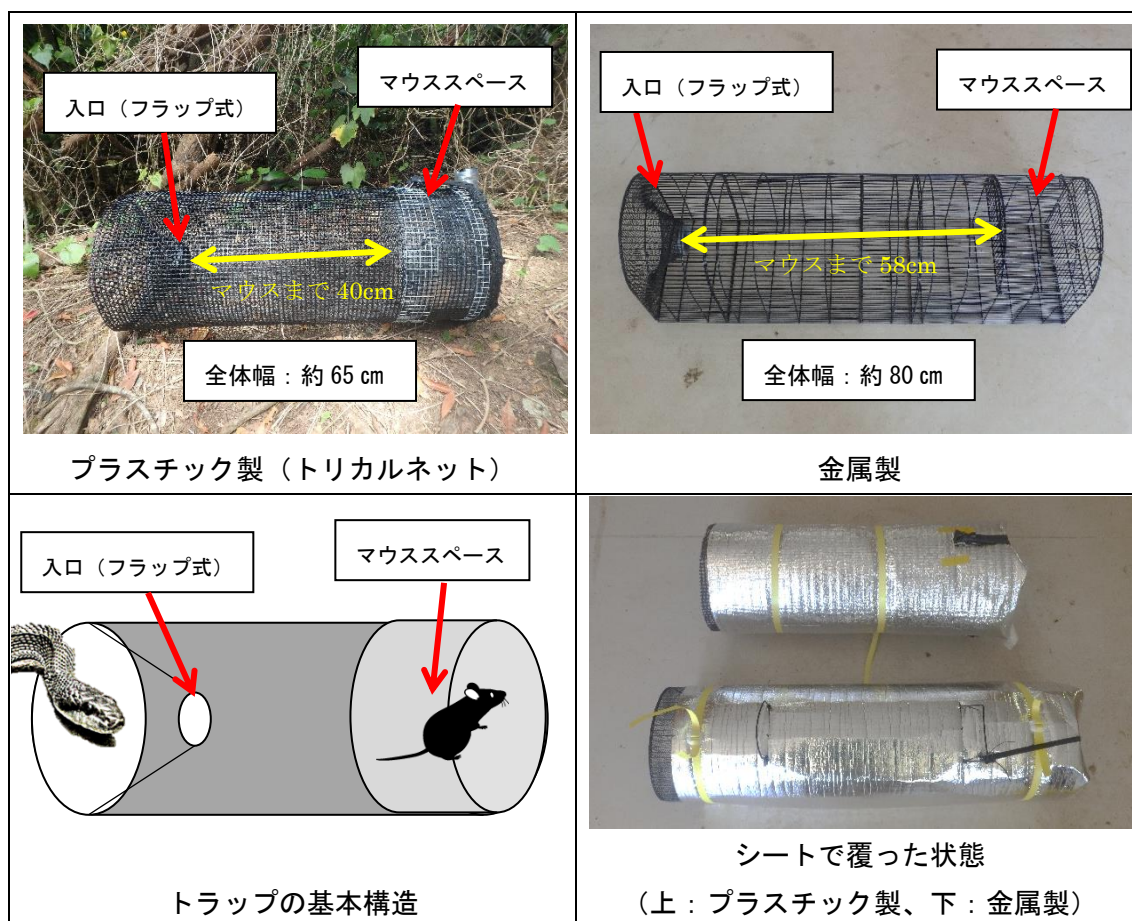


図 3-2-3.3 グラム型トラップと構造



図 3-2-3.4 グラム型の設置状況と環境

(3) Doc 型トラップ

Doc はニュージーランドで開発された踏み板式の捕殺わなで、捕獲対象種により大きさが異なる（図 3-2-3.5）。野外に設置する際は、混獲の発生リスクの低減や、一般人による誤操作を防止するため、箱の中に Doc を入れて地面に固定する。今回は Doc200 をヘビ用に改良したプラスチック製の専用箱（白色）に入れて使用した（図 3-2-3.6）。

専用箱の大きさは縦 43cm×横 28cm×高さ 24cm で、入口側の面は金網で高さ約 3.5cm×横約 6cm の入口を設けた（調査開始後、複数のマングース混獲があったため入口高さを約 2cm に変更した）。また、入口から侵入したヘビが踏み板に触れるための誘導用の塩ビパイプ（半円型）を取り付けた。

今年度は恩納村 8 台、名護市 22 台の合計 30 台について設置を行った。設置環境は主に林縁や林内とし畑や作業小屋周辺等にも設置した。また、誘引餌はマウス（ハツカネズミ）を使用し、2 週間に 1 回の頻度で点検を行った。

本トラップは、体の一部が踏み板に触れれば捕殺されるため、入口からマウスまでの距離を考慮する必要がなく、コンパクトな大きさに設計することが可能である。しかし、グアム型のように樹の幹などに設置することはできず、また捕殺式のため在来ヘビ類混獲のリスクがある。



図 3-2-3.5 Doc とその種類

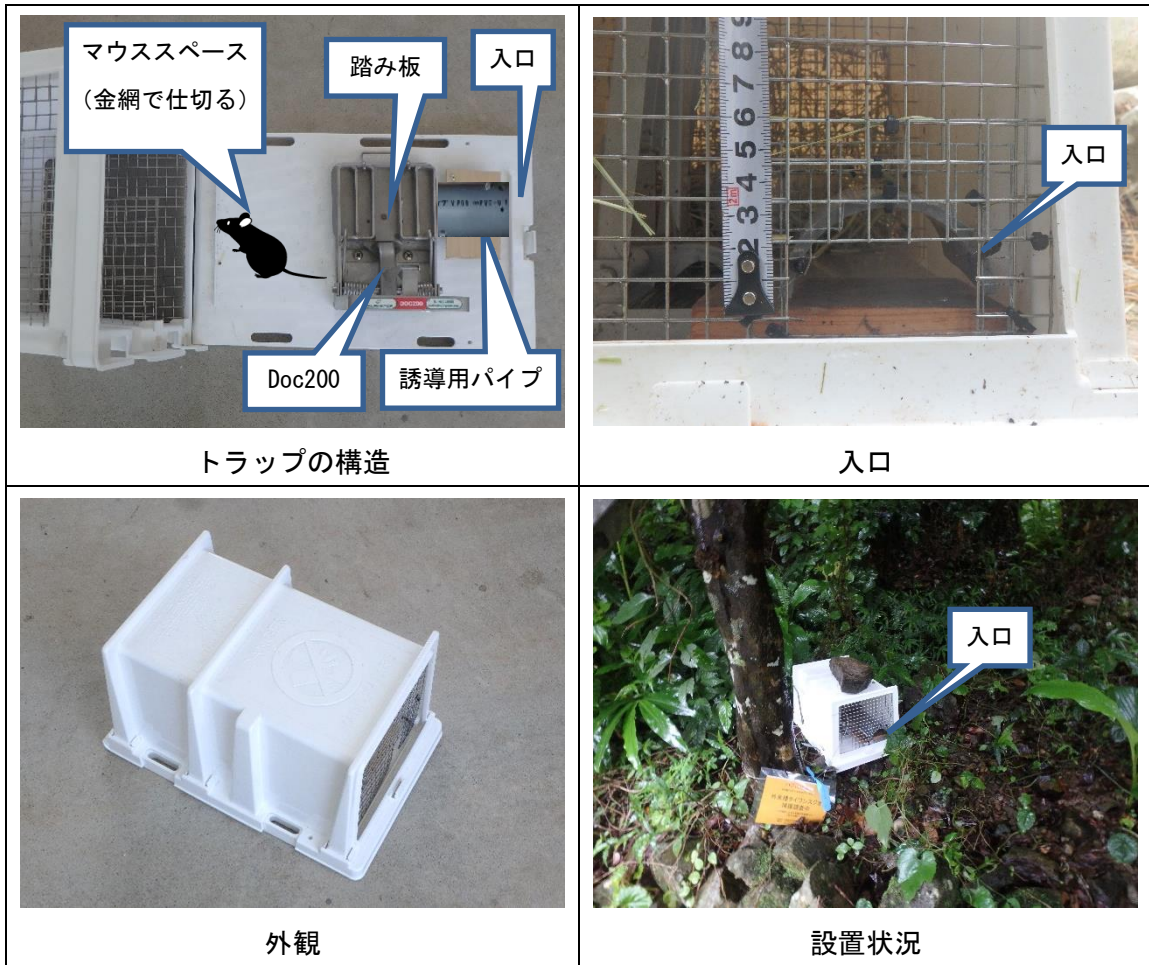


図 3-2-3.6 Doc 型トラップと構造

3-2-4. 結果および考察

本年度のヘビ類の捕獲結果を表3-2-4.1に示す。恩納村では、トラップ全体で25,583TD設置し、41個体のタイワンスジオを捕獲した。ヘビ類の混獲として、ハブ3個体、アカマタ5個体を捕獲した。名護市では、トラップ全体で24,678TD設置し、タイワンスジオの捕獲はなかった。ヘビ類の混獲としてタイワンハブ2個体、アカマタ9個体を捕獲した。

恩納村におけるタイワンスジオのトラップ別CPUE（100TDあたり）は、ハブ型が0.21と最も高く、次いでDoc型が0.15、グアム型が0.11となった。ハブ型はグアム型の約1.9倍のCPUEとなり、3種の中ではタイワンスジオの捕獲効率が最も高いわなと言える。

一方、ハブ型に次いでCPUEの高かったDoc型は、恩納村における設置台数が少なくスジオに対するCPUEの評価は難しいが、名護市ではタイワンハブ1個体、アカマタ8個体が捕獲されており、ヘビ類に対するDoc型のCPUEは恩納村・名護市の合計で0.23と他の2種より高い値となった。Doc型は踏み板による捕殺式のため、入口がオープン（開放）な形状で入口からマウスまでの距離を考慮する必要もない（小型化が可能）ため、構造的にヘビ類トラップとしての有効性は高いと考えられる。

表 3-2-4.1 ヘビ類の捕獲結果

設置場所	わな種	設置期間	設置台数	TD	タイワンスジオ		タイワンハブ		ハブ		アカマタ		計	
					捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE
恩納村	ハブ型	6月～11月	77	13,001	27	0.21	0	0.00	2	0.02	0	0.00	29	0.22
	グアム型	6月～12月	67	11,244	12	0.11	0	0.00	1	0.01	5	0.04	18	0.16
	Doc型	6月～12月	8	1,338	2	0.15	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.15
	計		152	25,583	41	0.16	0	0.00	3	0.01	5	0.02	49	0.19
名護市	ハブ型	6月～11月	75	12,412	0	0.00	1	0.01	0	0.00	0	0.00	1	0.01
	グアム型	6月～12月	53	8,806	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.01	1	0.01
	Doc型	6月～12月	22	3,460	0	0.00	1	0.03	0	0.00	8	0.23	9	0.26
	計		150	24,678	0	0.00	2	0.01	0	0.00	9	0.04	11	0.04
合計	ハブ型	6月～11月	153	25,413	27	0.11	1	0.00	2	0.01	0	0.00	30	0.12
	グアム型	6月～12月	120	20,050	12	0.06	0	0.00	1	0.00	6	0.03	19	0.09
	Doc型	6月～12月	30	4,798	2	0.04	1	0.02	0	0.00	8	0.17	11	0.23
	計		303	50,261	41	0.08	2	0.00	3	0.01	14	0.03	60	0.12

次に、恩納村におけるタイワンスジオ捕獲の経月変化を表3-2-4.2、図3-2-4.1に示す。

表 3-2-4.2 恩納村におけるタイワンスジオ捕獲の経月変化

設置場所	わな種	設置開始日	回収終了日	設置台数	タイワンスジオ											
					6月			7月			8月			9月		
					捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE
恩納村	ハブ型	6/8	11/25	77	4	1,622	0.25	10	2,428	0.41	4	2,449	0.16	3	2,291	0.13
	グアム型	6/11	12/10	67	1	1,130	0.09	6	2,089	0.29	1	2,077	0.05	2	2,010	0.10
	Doc型	6/18	12/10	8	0	96	0.00	1	248	0.40	0	248	0.00	0	240	0.00
	計			152	5	2,848	0.18	17	4,765	0.36	5	4,774	0.10	5	4,541	0.11

タイワンスジオ											
10月			11月			12月			計		
捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE	捕獲数	TD	CPUE
4	2,356	0.17	2	1,855	0.11	-	-	-	27	13,001	0.21
2	2,077	0.10	0	1,810	0.00	0	51	0.00	12	11,244	0.11
0	248	0.00	0	234	0.00	1	24	4.17	2	1,338	0.15
6	4,681	0.13	2	3,899	0.05	1	75	1.33	41	25,583	0.16

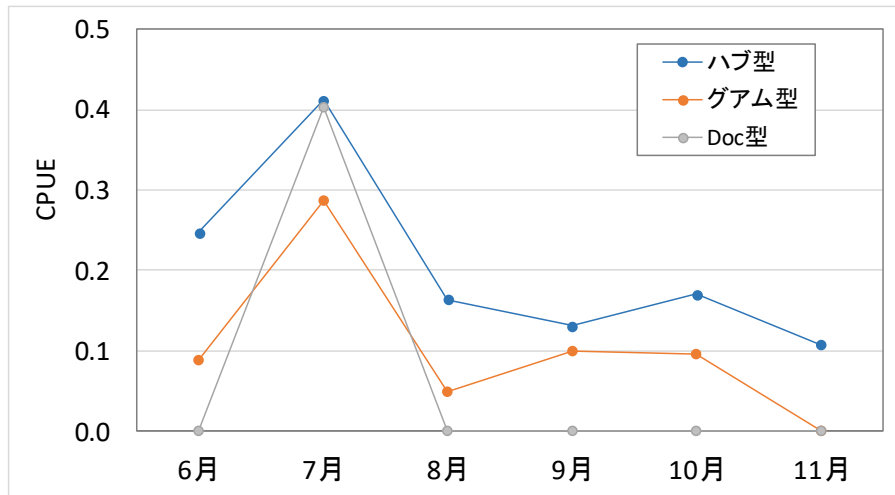


図 3-2-4.1 恩納村におけるタイワンスジオ捕獲の経月変化

図 3-2-4.1 より、いずれの捕獲器（ハブ型、グアム型、Doc 型）でも、7月の CPUE が最も高く、次に6月の CPUE が高い結果（Doc 型を除く）となった。沖縄島の平均気温が最も高い8月の CPUE は7月のピークから急激に減少し、そのまま9月から11月にかけて増加せず、横ばいの傾向を示した。

名護市為又、中山地区におけるタイワンハブの捕獲率（個体数/台/月）の経月変化については、秋から冬にかけて増加する傾向が報告されている。しかし、タイワンスジオではこのような現象は確認されなかった（図 3-2-4.2）。

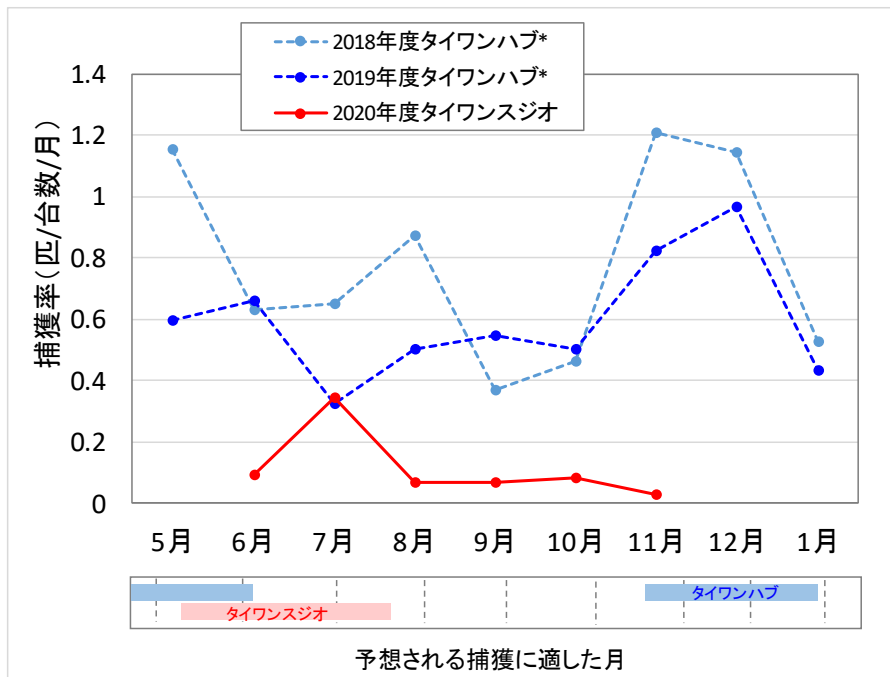


図 3-2-4.2 タイワンハブとタイワンスジオの捕獲率の経月変化

* : 平成31年度タイワンハブ密度監視定点調査より抜粋 (平成31年度危険外来種咬症根絶モデル事業報告書, 沖縄県, 令和2年3月)
 ・場所: 名護市為又、中山地区 ・地点数: 37 ・期間: 2019/4/16～2020/1/14 ・点検頻度: 1回/3週間
 ・捕獲数: 195個体 ・捕獲率: 0.588(匹/台/月)

次に、タイワンスジオの捕獲地点を図3-2-4.3～6に示す。また、恩納村における地区別タイワンスジオ捕獲結果を表3-2-4.3に示す。



図3-2-4.3 タイワンスジオ捕獲地点（恩納ー太田ー瀬良垣）



図 3-2-4.4 タイワンスジオ捕獲地点 (安富祖—喜瀬武原)



図 3-2-4.5 タイワンスズオ捕獲地点 (久志-豊原-辺野古)



図 3-2-4.6 タイワンスズメシオ捕獲地点 (江間-三原)

表 3-2-4.3 恩納村における地区別タイワンスジオ捕獲結果

わな種	設置場所	地区	設置期間	設置台数	TD	タイワンスジオ	
						捕獲数	CPUE
ハブ型	恩納村	恩納	6月～11月	12	2,115	3	0.14
		太田		13	2,154	4	0.19
		瀬良垣		20	3,520	14	0.40
		安富祖		17	2,688	3	0.11
		喜瀬武原		15	2,524	3	0.12
		計		77	13,001	27	0.21
グアム型	恩納村	恩納	6月～12月	13	2,218	0	0.00
		太田		9	1,512	1	0.07
		瀬良垣		13	2,153	5	0.23
		安富祖		15	2,505	5	0.20
		喜瀬武原		17	2,856	1	0.04
		計		67	11,244	12	0.11
Doc型	恩納村	喜瀬武原	6月～12月	8	1,338	2	0.15

恩納村においてタイワンスジオは、トラップが設置された5地区（恩納、大田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）のすべての地区から捕獲され、1地点（定点）から最大4個体が捕獲された（図3-2-4.3～6）。また、最もCPUEが高かった地区は、瀬良垣であり、ハブ型とグアム型で、それぞれCPUEは0.40と0.23となった。瀬良垣地区における捕獲地点の周辺環境は、国道58号線沿い、村落内、畑周辺、林縁部、バイパス付近の林にかけて、様々な環境から捕獲されている（図3-2-4.3）。また、2個体以上が捕獲された地点環境は、民家付近の林縁（ON012、ON032）、畑付近の林縁（OG025、OG036、OD068）、農業用水路付近（ON025）であった。

安富祖地区では、山間にある集団経営の畑とその付近で5個体が捕獲され、タイワンスジオの生息密度が高い地帯といえる（図3-2-4.4、ON048、OG036-38、OG040）。

また、トラップによる捕獲以外に、喜瀬武原において点検作業中に未舗装路を横断するタイワンスジオを目撃し直接捕獲した（10月21日13時頃）。捕獲地点から30～40m離れたところにはグアム型（OG067）とDoc型（OD068）が設置されており、トラップ捕獲を実施していても捕獲されない個体がまだ相当数生息している可能性が示唆された。

一方、名護市（久志、豊原、辺野古、汀間、三原地区）におけるタイワンスジオの捕獲は確認されなかった。このため、タイワンスジオが名護市の5地区に高密度に生息している可能性は低い。

捕獲されたタイワンスジオの計測値を表 3-2-4.4 に示す。

表 3-2-4.4 捕獲されたタイワンスジオの捕獲日と計測値

わな種	No.	捕獲日	地区	捕獲地点	性別	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	体重 (g)
ハブ型	1	2020/6/22	恩納	ON012	f	1510	390	951
	2	2020/6/22	恩納	ON012	m	1180	359	359
	3	2020/6/22	瀬良垣	ON039	f	1140	310	406
	4	2020/6/24	喜瀬武原	ON067	m	1520	440	666
	5	2020/7/6	瀬良垣	ON026	m	1090	310	308
	6	2020/7/6	瀬良垣	ON032	m	1250	230	400
	7	2020/7/6	瀬良垣	ON036	f	1200	220	368
	8	2020/7/6	瀬良垣	ON038	m	1210	330	381
	9	2020/7/7	瀬良垣	ON044	f	1300	300	447
	10	2020/7/7	安富祖	ON052	m	780	210	171
	11	2020/7/7	喜瀬武原	ON069	f	1040	210	250
	12	2020/7/20	瀬良垣	ON027	m	1060	310	330
	13	2020/7/20	瀬良垣	ON036	m	1420	280	730
	14	2020/7/20	瀬良垣	ON043	m	1420	370	570
	15	2020/8/3	太田	ON019	m	1200	330	468
	16	2020/8/3	瀬良垣	ON036	m	1480	370	631
	17	2020/8/5	喜瀬武原	ON064	m	1508	392	796
	18	2020/8/17	瀬良垣	ON045	f	1192	345	312
	19	2020/9/28	太田	ON025	m	1078	300	293
	20	2020/9/28	瀬良垣	ON032	f	1106	325	363
	21	2020/9/30	安富祖	ON057	f	1025	255	316
	22	2020/10/12	太田	ON023	f	1173	316	276
	23	2020/10/12	太田	ON025	f	1312	362	464
	24	2020/10/12	瀬良垣	ON040	f	1036	284	232
	25	2020/10/26	瀬良垣	ON036	f	1168	305	288
	26	2020/11/24	恩納	ON008	f	810	205	107
	27	2020/11/25	安富祖	ON048	m	1305	333	399
ゴム型	1	2020/6/23	安富祖	OG037	m	1236	356	392
	2	2020/7/3	瀬良垣	OG025	m	982	279	248
	3	2020/7/15	瀬良垣	OG035	f	1075	305	273
	4	2020/7/15	安富祖	OG036	f	1093	310	276
	5	2020/7/28	瀬良垣	OG028	m	1252	368	398
	6	2020/7/28	瀬良垣	OG030	f	1359	379	460
	7	2020/7/28	安富祖	OG042	f	1225	340	422
	8	2020/8/13	安富祖	OG038	f	1073	296	229
	9	2020/9/10	太田	OG020	m	1055	290	234
	10	2020/9/10	喜瀬武原	OG061	m	1152	341	446
	11	2020/10/7	瀬良垣	OG025	m	974	259	180
	12	2020/10/20	安富祖	OG040	f	1077	296	252
Doc型	1	2020/7/16	喜瀬武原	OD068	-	-	-	-
	2	2020/12/3	喜瀬武原	OD068	-	-	-	-
直接捕獲	1	2020/10/21	喜瀬武原	OG067近く	f	1370	380	468

※Doc型での捕獲個体は白骨化や腐敗のため雌雄判別及び計測は不可。

<ハブ型>

雌雄比=14/13, 平均頭胴長:1,204mm(最大:1,520mm, 最小:780mm), 平均尾長:311mm, 平均体重:418g.

<ゴム型>

雌雄比=6/6, 平均頭胴長:1,129mm(最大:1,359mm, 最小:974mm), 平均尾長:328mm, 平均体重:318g.

次に、へび類以外の混獲結果を表 3-2-4.5 に示す。

表 3-2-4.5 混獲結果

設置場所	わな種	設置期間	設置台数	TD	マンガース	クマネズミ	リュウキュウハツカネズミ	ジャコウネズミ	不明	計
恩納村	ハブ型	6月～11月	77	13,001	2	0	0	0	0	2
	グアム型	6月～12月	67	11,244	1	6	0	0	0	7
	Doc型		8	1,338	2	3	0	0	0	5
	計		152	25,583	5	9	0	0	0	14
名護市	ハブ型	6月～11月	75	12,412	1	0	2	0	2	5
	グアム型	6月～12月	53	8,806	0	42	0	0	0	42
	Doc型		22	3,460	4	25	0	1	0	30
	計		150	24,678	5	67	2	1	2	77
合計	ハブ型	6月～11月	152	25,413	3	0	2	0	2	7
	グアム型	6月～12月	120	20,050	1	48	0	0	0	49
	Doc型		30	4,798	6	28	0	1	0	35
	計		302	50,261	10	76	2	1	2	91

ハブ型ではマンガース 3 個体、リュウキュウハツカネズミ 2 個体、不明 2 個体が、グアム型ではマンガース 1 個体、クマネズミ 48 個体が、Doc 型ではマンガース 6 個体、クマネズミ 28 個体、ジャコウネズミ 1 個体が混獲され、ハブ型の混獲がグアム型やDoc 型に比べ少ない結果となった。

Doc 型によるマンガースの捕獲は、入口の高さを約 2 cm に修繕した後は捕獲されなかった。

グアム型は特に名護市でクマネズミの混獲が多く、マウスに危害を加えたり入口のフラップを破損させる被害が確認された（混獲されたクマネズミによるものと思われる）。そのため、マウススペースの周りに目の細かい金網を取り付けたり、入口のフラップを補強するなど修繕を行った。

3-2-5. 各トラップの性能比較

各トラップの性能及び捕獲単価を比較した結果を表 3-2-5.1 に示す。今年度の恩納村におけるタイワンスジオの捕獲結果をもとに 1 頭捕獲にかかるコストを試算した。

トラップを新規に購入・作製して捕獲を実施した場合、1 頭捕獲コストはハブ型 89,354 円、グアム型 123,798 円、Doc 型 83,498 円となった。グアム型は他の 2 種に比べ高く、コストの点からはハブ型または Doc 型の使用が推奨される。一方、新規にトラップを購入・作製せずに既存のものを使用した場合のコストは、ハブ型 45,465 円、グアム型 48,256 円、Doc 型 54,898 円となり、3 種に大きなコストの差はないが Doc 型が少し高い点を考慮すると、ハブ型またはグアム型の使用が推奨される。

表 3-2-5-1 各トラップの性能比較

No.	比較項目	ハブ型	グアム型	Doc型
1	外寸	幅75cm×横34cm×高さ18cm	幅80cm×横23cm×高さ25cm	縦43cm×横28cm×高さ24cm
2	耐久性(台風なども含む)	○	△(ネコ・マウズミ対策必要)	○
3	ハンドリング	○	△	×
		直置きのため設置時間が短い。点検作業も短時間で可能。可動部分がなく、取り扱っても容易である。	大型のため持ち運びや設置作業は時間を要するが、点検作業は短時間で可能。	捕殺式であり取り扱いには技術が必要。また、動物が捕獲された場合、捕獲動物の処理に時間がかかる。
4	車1台積載台数(軽バン想定)	25	20	30
5	トラップ単価(税込)	¥15,000	¥13,530	¥7,150
6	1日あたり点検台数(台/日/人)	30	50	30
7	マウス死亡率	8%	12%	16%
8	ラット死亡率	4%	—	—
9	マウス単価(円)	—	¥70	¥70
10	ラット単価(円)	¥3,000	—	—
11	じゃがいも&ロウドッグフード(円/台)	—	¥150	¥150
12	ドックフード(円/台)	¥100	—	—
13	床材(わら)(円/台)	—	—	¥50
14	点検作業における仮定人件費*(日/人)	¥27,800	¥27,800	¥27,800
15	スジオ捕獲数(恩納村)	27	12	2
16	わな台数(恩納村)	79	67	8
17	点検回数(恩納村)	12	12	12
18	人件費	¥878,480	¥447,024	¥88,960
19	マウス代	—	¥11,444	¥1,635
20	ラット代	¥254,280	—	—
21	エサ代、床材代	¥94,800	¥120,600	¥19,200
22	トラップ代	¥1,185,000	¥906,510	¥57,200
23	スジオ1頭捕獲コスト(トラップ代含む)	¥89,354	¥123,798	¥83,498
24	スジオ1頭捕獲コスト(トラップ代含まず)	¥45,465	¥48,256	¥54,898

*:この価格には、車両費等及び管理費等は含まれていない。